

**児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)**

公表:令和5年12月

事業所名 クレヨンルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		換気等に気を付け、基本的な感染対策を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		より良い療育を提供できるように、有資格者の配置もできている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		イラストを用い、わかりやすく構造化している。また、バリアフリーになっていない箇所には踏み台を設置するなど配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、清掃・消毒等を実施し、衛生面には特に配慮している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		情報共有を大切にし、目標を全体で設定して日々の業務に活かしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価結果を全職員で把握し、改善点などを確認している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者へ対面での結果・改善点の説明及び、HPでの公表をしている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修機会を確保し、職員のレベルアップを図り、日々の支援に活かしている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ニーズ等を保護者からしっかりと聞き取り、課題点を考慮し計画書の作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達チェックシートを使用して、発達状況を把握し定期的に再評価をしながら支援している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		計画書に支援内容を具体的に設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画書を確認しながら、支援目標・支援内容に沿う教材準備をしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で立案・検討し、より良い療育が提供できるように行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者の発達状況に合わせた活動内容になるように日々チェックしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員間での情報共有・確認作業を行っている。	

適切な支援の提供	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		職員間での振り返り・共有を行い、次回の療育につなげられるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		記録は必ずとり、支援の検証・改善につながるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		モニタリングを行い、定期的に目標などの見直しが必要か検討している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		児童発達管理責任者や対象の子どもの状況をよく理解した職員が、サービス担当者会議に参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		関係機関と連携し、情報共有を図りチームとして支援できるように努めている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	非該当			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	非該当			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		必要に応じて情報共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		必要があれば、保護者の同意を得て関係機関に情報を提供している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		必要があれば助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>		保育所・認定こども園・幼稚園に通いながら併用されているので連携はしているが、共に活動することはしてない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>		連絡ノートや面談を通して、発達状況・支援内容・保護者の思い・利用者の家庭での様子などの情報を共有し理解を図っている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	<input type="radio"/>		面談時に家庭での関わり方などの指導をしている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		定期的に家庭や保育所等での様子を伺い、保護者の気持ちの負担軽減を図り、必要であれば助言をし支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		<input type="radio"/>		

保護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		相談があった場合、速やかに対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		<input type="radio"/>		個別療育を主に行っているので、個人情報の観点から会報などは発行していない。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		情報提供をする場合は保護者に同意を得て提供している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		連絡ノートを活用し支援内容が毎回分かるようにしている。また、必要があれば電話で状況などをお知らせしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		<input type="radio"/>		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	<input type="radio"/>		契約時に災害時の対応など説明している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		職員で訓練している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	<input type="radio"/>		服薬や運動制限などはアセスメントの際に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		食物の提供はしていないが、必要があればアセスメントの際に確認する。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		ヒヤリハット事例集を職員で確認し、日頃から気をつけている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		毎年、虐待防止の研修会をしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>		身体拘束を行う場合の状況を全職員で把握しており、必要があれば保護者に十分な説明をし、個別支援計画書にやむを得ない場合は身体拘束を行うことを記載する。	